

# 物流 現場 のミカタ

## 荷主企業が取り組む 物流戦略を知る Part2 「物流拠点の配置見直し」

荷主企業における物流体制の見直しが進んでいます。しかし、その取り組み領域および内容は企業によって大きく異なります。

今回は荷主企業の「物流拠点の配置見直し」と、それに対応する物流企業の取り組みについて、船井総研ロジ株式会社の渡邊庸介氏に解説してもらいます。

自社物流を展開する荷主企業や物流子会社の皆様は取り組みの参考に、  
物流企業の皆様は荷主企業の動きを知ることで、今後の対応策のヒントにしてください。



### 荷主企業の視点 物流拠点の再配置、発生するリスクを見定めて進行

#### 拠点再配置は「コスト」重視から「物流の継続化」へ

物流拠点の再配置は、二十数年前から物流コンサルティングにおいても継続して取り組んできたテーマになります。当時は、コストダウンを目的とした「物流拠点集約」でしたが、集約の結果、得意先と物流拠点の距離が延び、物流の継続が困難になる懸念が出てきました。そこで現在では継続化を目指した、

「物流拠点分散」という方向に進んでいます。その目的は、長距離輸送を限定し運賃上昇を回避するほか、近距離輸送での取引物流企業の選択肢を残すなど、できる限りリスクを回避するためです。

#### 新規拠点開設は同時に多くのリスクを抱えることも

一方で、対策を講じない拠点分散は在庫の増加を招きます。在庫拠点はそれぞれが安全在庫を保有することになるので、結果的に全体の在庫量が増加するのです。そこで、在庫リスクの回避策として、拠点分散する際には在庫を管理する専任者を置き、マザー拠点の在庫および地域拠点への在庫補充、

さらには幹線便をコントロールすることが必須になります。

また、新しい拠点開設時には倉庫の引っ越しや新しいパートナーの選定など、リスクを伴う動きが並行して起こるもの。そのため、そこに対する人員の割り当てと必要な期間を見定めて取り組むことが進行を確かなものにします。



### 物流企業の対応 自社ノウハウを提供しリスク回避に貢献

荷主企業の拠点再配置にはリスクがついて回ります。それを低減するのが、物流企業が蓄積してきた「専門知識」と「ノウハウ」です。物流企業の皆様は新しい拠点設置の際に発生しうるリスクに対して、自らがどのような役割を担えるのかをチェックしてみてください。特にノウハウが必要とされるのは右記の場面です。

- 新しい倉庫の業務・レイアウト・省人化の設計  
(マテリアルハンドリング選定など)
- 倉庫の移転業務
- 倉庫の立ち上げ～安定稼働

現在、移転を検討している荷主企業との会話において自社の貴重な知識・ノウハウを伝え、良きパートナー関係を築いてください。

渡邊 庸介 (わたなべ ようすけ)

船井総研ロジ株式会社 ロジスティクスコンサルティング部部長、荷主企業の自社物流再構築支援プロジェクトを推進、特に物流企業との契約内容の見直し・業務の見直しなどの短期改善から拠点配置の見直しなどの中長期物流戦略立案に従事してきた。近年では荷主企業のコスト削減とサービスレベルの見直しに注力、現場改善の実践を物流担当者と一緒に活動することで社内へのノウハウ定着を図っている。

